

いまがいちばん輝いてる！
毎日が発見

Tsunichi ya Hibiki

11
November
2016
No.154



特集 禅の教えですっきり暮らす

心と部屋を整え 年末の片付け&大掃除

2016年11月号(10/28発行)

心と部屋を整え

年末の片付け & 大掃除

Part1 禅に学ぶ
年末の心得

Part2 「引き算片付け」であふれるものを手放す

Part3 エコ掃除でたまった汚れを落とす

災害に備えて覚えておきたい施設 要介護者を支える「福祉避難所」



松尾 弥生さん
まつお・やよい

1983年生まれ。㈱南阿蘇ケアサービス副ホーム長、社会福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士、熊本県認知症介護指導者。



熊本地震で被災して
福祉避難所を運営しました

「要介護高齢者と熊本地震」がテーマのシンポジウム（杉並介護者応援団主催）で松尾さんが講演。スクリーンの写真は福祉避難所「結の家」に並ぶ段ボール箱ベッド。



地域の一般避難所で3日間過ごした時の様子。通常椅子に座った状態の介護が多いため、量の上の介護は困難だったそう。

熊本地震をはじめ、災害では体の不自由な要介護高齢者は、一層の困難を強いられます。では熊本地震ではどう乗り越えたのでしょうか？被災し、福祉避難所を設置した、グループホームなどを運営する南阿蘇ケアサービスの副ホーム長・松尾弥生さんに話を伺いました。

「被災した介護施設では、職員が不安を確認しに行きました。深夜に余震が続く中、要介護高齢者を安全な場所へ誘導しました。電気が途絶え、電話もつながらない状況でした」

「ライフラインが途絶えただけでなく、要介護高齢者の常用薬が翌日までしかない」、「在宅で24時間訪問サービスの利用者が家に一人であるが大丈夫か？」などさまざまな問題が発生し、大混乱となりました。さらに交通の要・阿蘇大橋と俵山トンネルなどが崩落し、熊本市内へは迂回しないと行けない事態に。電気が途絶えたため、発電機やガソリンが必要になったほか、薬などを手に入れるため、各所へ奔走。県外から、支援に来られる方々に持つてきてもらっ

ど、手を尽くしました。

福祉避難所とは？

災害時に既存の建物を活用し、介護の必要な高齢者や障害者など一般の避難所では生活に支障を来す人に対して、ケアが行われる避難所のこと。

ボランティアの力で
震災を乗り越えた

176カ所と福祉避難所の協定を結んでいた熊本市も、4月16日福祉避難所を開きました。1700人収容可能予定でしたが、実際の開設は4割程度だったそうです。南阿蘇村は旅館3カ所と協定していました。

「体育館に避難したものの要介護高齢者にとっては生活が困難な状況にあり、ご家族や外部のケアマネージャーから、ケアサービスで受け入れられないか相談があいつぎました」

そこで4月20日に要介護高齢者を一人でも多く受け入れるべく、役場へ南阿蘇ケアサービス福祉避難所として申請し許可

福祉避難所 利用者の声

・トイレに安心して行けたからよかった。ご飯がおいしく食べられた。
・要介護者の家族が南阿蘇へ駆けつけるのが困難だったのでありがたかった。
・旅館の避難所では食堂へご飯を食べに行くことが困難で衰弱した。薬も飲めていなかった。

をもらい、要介護高齢者を支えました。また村内にある9つの事業所へ介護・看護ボランティアを均等に派遣する支援の仕組みが必要となり、松尾さんらが「みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク」を立ち上げて調整。結果、約550名のボランティアが支援しました。福祉避難所やボランティアのおかげで、要介護高齢者は支援を受

けることができました。

「被災した介護施設では、職員も被災者であり、早期に外部の支援が入ることが重要でした。ボランティアのおかげで乗り切れたといえます」

今後は、福祉避難所のあり方について福祉事業者や関係者だけでなく、地域全体の課題として村民と一緒に考えることが重要だと語ってくれました。

介護ボランティアの心得

まずは名前や介護職経験などの自己紹介文をコーディネーターに送りましょう。被災者のために何ができるかを第一に考え、自己を抑え、時には待つことが大切。技量以上のことを頼まれたら無理せず、断る勇気を持ちましょう。



川内 潤さん
かわうち・じゅん
NPO法人となりの
かのご代表。